

Title	金融システムの変化と都市銀行の対応 - 銀行の投融資分析を中心として -
Sub Title	
Author	浜田幸輝(Hamada, Yukiteru) 青井倫一
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1988
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1988年度経営学 第636号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001988-0636

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	浜田幸輝	主査	青井倫一
	(株式会社三菱銀行)	副査	鈴木貞彦
所属ゼミナール	青井倫一研		矢作恒雄

金融システムの変化と都市銀行の対応 —銀行の投融资分析を中心として—

低成長経済への移行後、内外資本市場を通じての資金調達が可能で上場企業の銀行離れが進行してきた。しかし、金融環境の変化に関わらず、銀行が顧客株式を総合的取引の一環として取得する政策投資は、盛んに行なわれてきた。政策投資は高度成長期においては融資業務と補完的な関係にあったが、現在の金融環境の中では潜在的に融資業務と矛盾する可能性を持っている。政策投資は日本特有の銀行行動であり、その背後のメカニズムを探ることは日本の金融システムの分析に何等かの示唆を与えるものと思われる。

この問題にアプローチするために、論文の第1章で、日本の企業金融、金融機関・金融市場の変化などを相対取引型から市場取引型への金融システムの変化として大掴みに把握し、第2章で、政策投資に問題を限定して、過去の研究のサーベイ、具体的な数字に基づくマクロ的な株式市場構造と企業金融動向の確認をし、第3章で大手都銀・長信銀をサンプルとしてその投融资動向を把握する。第4章では、政策投資の銀行・企業双方に及ぼす影響を観察する。第5章では以上の分析を前提に政策投資の背後にあるメカニズムを考察し、併せて将来展望を試みる。

対象とした期間に於ける、各企業の発行株式数増加に対する各銀行の株式取得貢献度は6%程度以下であった。しかし、取引銀行間の株式投資競争の結果、銀行部門全体としては、毎年15~20%程度の企業株式安定化を行ってきた。政策投資は銀行融資に対して、必ずしも補完的な役割を果たしていなかった。むしろ、それは「株式持合」という企業・銀行間の相互の期待行動を含むメカニズムに立脚するものと考えられ、株式持合自体は、今後、銀行・生命保険会社が経営環境変化に対応していく過程で崩壊していく可能性が高い。銀行は金融システムの変化に対応する新たな取引地位確保の手段を見いだして行かなければならない。